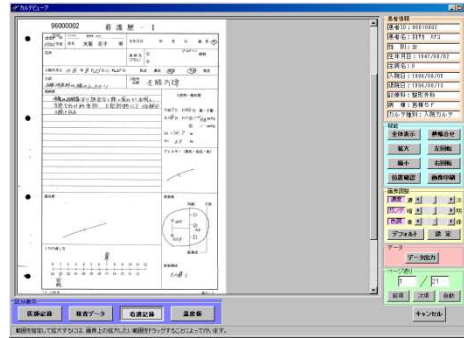


| | | | |
|---------------|--|------|-------|
| システム名 | カルテ・X-P医療管理システム(ファイリング) | ユーザー | S大学病院 |
| 旧システムの 問題点 | カルテやX-Pなどの資料は特別の書庫に一括管理されているが、必要な書類をいつでも素早く確実に閲覧することが難しい。院内規定で資料の永久保存化が決められているため資料が無限に増え続け、さらに保管経費が日に日に増加の一途をたどり、さらに資料の劣化を避けられない。 | | |
| メリットなど | ネットワーク化によりデータの共有化が実現。独自のセキュリティシステムによりデータの保護など安全性が向上。資料の電子化により原本廃棄が可能となり、資料の増加に歯止めが掛かる。様々な観点から検索が可能となり医療資料の多目的な利用が増大した。DVDでデータバックアップ体制。結果的に資料保存コストが削減される。 | | |

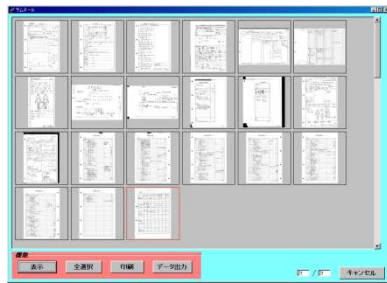
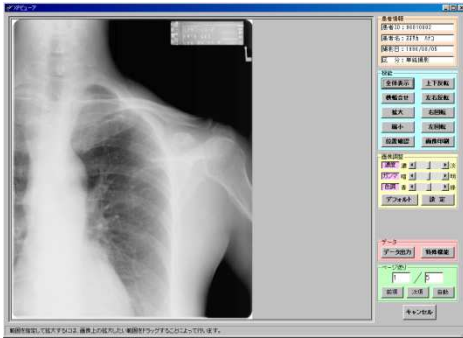
導入システム(運用)などについて



様々な検索キーワードやカテゴリ(分類)にて**検索**(患者ID、氏名、病名、入退院日、など)



ビューフにて**閲覧表示**(画像調整・拡大縮小、ページ送りなど)



結果一覧で該当のデータを**サムネイル**で表示



データ入力について

- カルテ/X-Pをスキャンし、登録ソフトによる処理で検索項目データと画像データを融合しDVDへ。
- DVDディスクからデータをサーバー側へ一括インポート。
- DVDはバックアップデータとして保存利用。
- 現状700万枚のカルテと、50万枚のX-Pを管理。
- 一日のカルテ登録枚数は3千枚~1万枚。(3名)

